

- 1 派遣期日 平成28年11月18日(金)
- 2 研修先 学校名 川崎市立宮内中学校
所在地 神奈川県川崎市中原区宮内4-13-1
<http://www.keins.city.kawasaki.jp>
- 3 研修内容

第40回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 神奈川大会

研究主題

グローバル化する社会で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成
～受信から発信へとつながる4技能の統合的な指導の工夫～

(1) 基調提案

「グローバル化する社会で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成
～受信から発信へとつながる4技能の統合的な指導の工夫～」について

(2) 公開授業「受信から発信へ～話すことにつながる指導～」

授業者 川崎市立宮内中学校 教諭 大窪 洋次郎先生

(1) 基調提案

急速に進むグローバル化、情報化などにより、これからの社会はますます予測のつかないような変化をしていくだろうと言われている。このような社会の中で、子どもたちは将来、様々な文化や考え方をもった人々とコミュニケーションを図り、新しい発想をもって困難や課題を乗り越え、変化に対応していくことが求められる。

このような状況において、文部科学省は、新しい時代に必要とされる資質・能力を、

- ① 「何を理解しているか、何ができるか（「知識・技能」の習得）」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか（「思考力・判断力・表現力」の習得）」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（「学びに向かう力・人間性の涵養」）」

の3つに整理している。また、「どのように学ぶか」にも着目し、「対話的な学び」「主体的な学び」「深い学び」の実現を目指している。

以上のことを踏まえ、研究主題を設定した。主題に迫るために、各分科会において、学習形態や内容を工夫し、指導を研究した。「対話的な学び」「主体的な学び」「深い学び」の視点を学習活動に取り入れながら、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成を目指したい。

(2) 公開授業

- ① 研究テーマ 受信から発信へ～話すことにつながる指導～
- ② 単元名 TOTAL ENGLISH 2 Lesson 5 “Career Experience”
- ③ 本時の目標 ALT に合っている職業を提案するために ALT に質問し、得た情報をもとに自分の考えを伝える。

④ 展 開

ア 導入（サイコロトーク）

4～5人のグループに分かれて、六面体のサイコロを振り、出た目のお題について英語で話す。3文以上話すことができれば◎、2文なら○、1文なら△といったように、互いを評価し合う。

イ 展開

- ・ ALTに合った職業について必要な情報を集めるために、グッドモデルとして、JTEがALTに質問をする。
- ・ グッドモデルを参考に、ALTに薦める職業を探るために、生徒がALTに質問をする。生徒の学習段階で理解が困難な回答があれば、JTEが言い換える。生徒たちはそれぞれのワークシートにメモをする。
- ・ グループに分かれ、2のメモを互いに確認する。
- ・ メモを見て、口頭でALTに薦めたい職業やその理由についてペアで伝え合う。JTE、ALTは机間指導により、生徒たちの発言内容、状況を確認し、必要があれば全体にフィードバックをする。
- ・ ペアで伝え合った後、メモを見直すなどして、自分の考えを改めて整理する。
- ・ 生徒がALTに、自分の考えを発表する。ALTは提案に対し理由を聞くなど、リアクションをする。

ウ 振り返り

グループごとに、言いたかったが言えなかった表現、難しかったこと、工夫して取り組めたことなどを振り返る。教師は机間指導をしながら、生徒たちの振り返りを聞き、アドバイスをするなどして改善点に気付かせる。



4 感想

今回の研修を経て、まず思うことは、宮内中学校の生徒たちの英語でのコミュニケーション能力の高さである。展開では、個別に質問する場面にもかかわらず、多くの生徒が挙手し、ALTに英語で質問をしていた。導入で行われていた、サイコロトークなど、普段の授業から自分の意見を英語で表現する場が多く設けられているのだろう。また、失敗を恐れず英語で話す友達を受容するクラス全体の雰囲気も良かった。

今回の研修を通して、改めて、授業中での生徒の英語での発話量の重要性を確認することができた。授業の帯活動、終末の活動などで発話量を確保し、「生徒が失敗を恐れず、積極的に英語でコミュニケーションをとる授業」展開に向けた、授業改善・実践をしていきたい。